令和７年度白河市ひきこもり等孤独・孤立対策推進事業　事後評価

①指標名	令和７年度目標値	令和７年度実績値
ひきこもりなどの孤独・孤立の問題に関する相談延べ件数（件）	1,110	1,571

【事後評価】
- 支援対象を世代で限定せず、「孤独・孤立」という広い枠組みに転換した見直しは法の趣旨に沿い、多様な広報を通じて目標を上回る相談につなげた点も評価される。
- 延べ件数だけでは支援の実態や質を把握しにくいため、実人数、新規・継続別、相談経路・年代・内容を分析し、初回相談後の継続状況や中断理由も初期対応の改善に生かすことが期待される。
- 相談の多様化を踏まえ、関連事業との連携・つなぎの強化も今後の課題となる。

②指標名	令和７年度目標値	令和７年度実績値
社会参加活動の参加者延べ人数（人）	150	272

【事後評価】
- 本人の主観的な孤独感に着目した支援は、参加のハードルを下げ、利用者が「役割を担う側」となる地域共生社会の方向性にも合致している。
- オンライン居場所も対面が難しい層の受け皿として定着しており評価できる。
- 今後は延べ人数だけでなく、実人数や参加頻度の分布を把握し、偏りなく新たな層に届いているか検証することや、参加者の内面・生活の変化を捉える工夫が望まれる。

③指標名	令和７年度目標値	令和７年度実績値
社会参加活動への定着支援延べ件数（件）	40	206

【事後評価】
- 未対面者への手紙送付や支援中断者・家族への再アプローチは、つながりが途切れやすい人を支える丁寧なアウトリーチとして評価できる。
- 交通手段の不足に柔軟に対応したことも、地方の社会参加支援の実情に即している。
- 実績が目標を大きく上回った要因を分析し、定着支援の範囲を明確にして評価することが今後期待される。
- 移動支援の負担と継続性を考慮し、関係機関と連携した地域的な仕組みづくりも求められる。